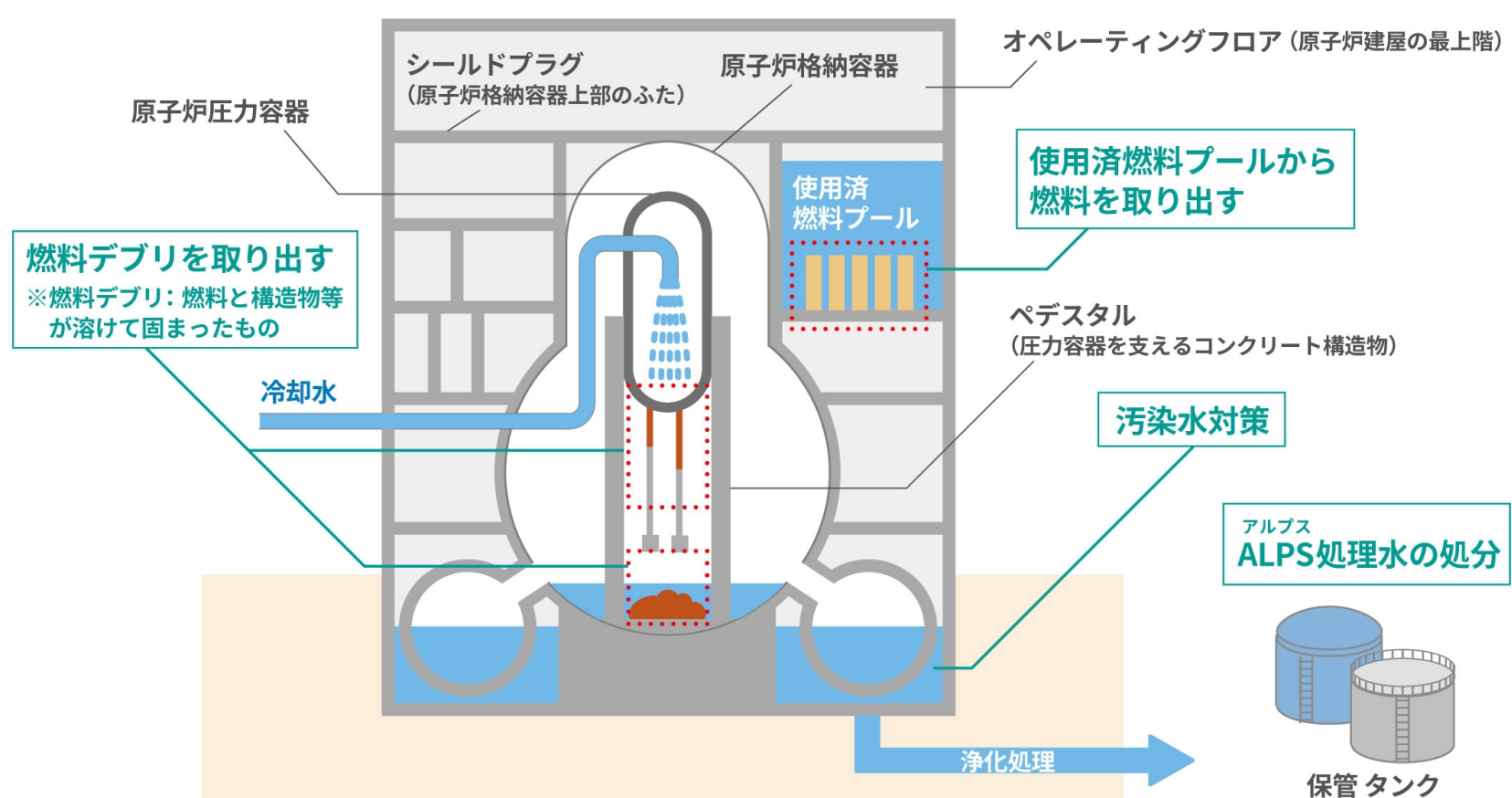


福島廃炉



出典：経済産業省 『廃炉・汚染水・処理水対策ポータルサイト 主な取組』より引用

1. 燃料デブリの取り出し

デブリとは、事故により溶融し固化した核燃料や炉心の破片をさします。2024年11月に2号機で試験的な燃料取り出しが完了し、このデータを基に本格的な作業への移行が計画されています。

2. 使用済燃料プールからの燃料取り出し

4号機および3号機からの燃料はすべて回収済みで、現在は1号機と2号機における燃料取り出しの準備が進行中です。（※2025年4月1日現在）

3. 汚染水対策

原子炉の冷却に使用された水や地下水が放射性物質と混ざり汚染水が発生します。これに対処するため、「陸側遮水壁」や「地下水バイパス」が設置されました。既に発生した汚染水は「ALPS（多核種除去設備）」で浄化され、放射性物質が大幅に除去されたうえで管理されています。

4. ALPS処理水の処分

2023年から処理水の海洋放出が開始されました。放出前には基準値以下まで浄化され、国際基準に従って希釈されています。

5. 廃棄物の処理・処分、原子炉建屋の解体等

放射線レベルが高い廃棄物は特別な容器に封じ込めて厳重に管理されます。安全が確認された金属やコンクリートの一部は再利用される予定です。最終的には建物や設備を解体し、敷地を放射線の影響がない状態に戻すことをめざしています。

福島第一原子力発電所の廃炉作業は、30～40年規模の長期計画が必要とされています。世界でも前例のない困難な取り組みですが、「復興と廃炉の両立」を掲げ、安全を最優先にしながら着実に進められています。

関連リンク

[福島復興](#) 

HITACHI